



## HX ネイティブ スナップショットの管理

- [HX ネイティブ スナップショットの概要 \(1 ページ\)](#)
- [HX ネイティブ スナップショットの利益 \(2 ページ\)](#)
- [HX ネイティブ スナップショットの考慮事項 \(3 ページ\)](#)
- [HX ネイティブ スナップショットのベスト プラクティス \(7 ページ\)](#)
- [HX ネイティブ スナップショットのタイムゾーン \(9 ページ\)](#)
- [HX ネイティブ スナップショットの作成 \(10 ページ\)](#)
- [ESXi 7.0 U2 を使用した HX ネイティブ スナップショット \(11 ページ\)](#)
- [HX Native スナップショットのスケジューリングの概要 \(11 ページ\)](#)
- [HX Native スナップショットのスケジューリング \(13 ページ\)](#)
- [HX Native スケジュール済みスナップショットの頻度の設定 \(14 ページ\)](#)
- [HX Native スナップショット スケジュールの削除 \(14 ページ\)](#)
- [HX ネイティブ スナップショットへの復帰 \(15 ページ\)](#)
- [HX Native スナップショットの削除 \(16 ページ\)](#)

## HX ネイティブ スナップショットの概要

HX ネイティブ スナップショットは、VM のバージョン (状態) を保存するバックアップ機能です。VM は、HX ネイティブ スナップショットを使用して、以前に保存したバージョンに戻すことができます。ネイティブ スナップショットは VM の複製で、ネイティブ スナップショットが作成された時点での、すべての VM ディスク上のデータの状態と VM の電源の状態 (オン、オフ、またはサスペンド) が含まれます。保存した状態へ復元できるようにするには、ネイティブ スナップショットを取得して VM の現在の状態を保存します。

HX ネイティブ スナップショットの管理では、次の方法が使用されます。

- HTML 5 の vSphere クライアント プラグインでの HX ネイティブ スナップショットのサポートは、プラグインバージョン 2.0.0 で導入されました。詳細については、[今すぐスナップショットを作成](#) を参照してください。
- HTML 5 の vSphere クライアント プラグインのスケジュール スナップショットのサポートは、プラグインバージョン 2.1.0 で導入されました。詳細については、[スナップショットのスケジュール](#) を参照してください。

- vSphere の「スナップショットの管理」機能は、特定の HX ネイティブスナップショットに戻すことも、すべてのスナップショットを削除することもできます。
- Cisco HyperFlex Connect は、オンデマンドを作成し、HX ネイティブスナップショットをスケジュールできます。
- HyperFlex コマンドラインユーザーインターフェイスでは、HX ネイティブスナップショットを作成できます。
- HX REST API は、HX ネイティブスナップショットを作成および削除できます。
- Cisco HXDP リリース 5.5(x) の重要な変更:
  - ESXi バージョン 6.5、6.7、および 7.0 U1 はサポートされていません。
  - Sentinel スナップショット作成ワークフローはサポートされていません。

VMware スナップショットの追加情報については、次のリンク先の VMware ナレッジベース「VMware KB, Understanding virtual machine snapshots in VMware ESXi and ESX (1015180)」を参照してください。

[http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en\\_US&cmd=displayKC&externalId=1015180](http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=1015180)

## HX ネイティブスナップショットの利益

HX Native スナップは次の利点を提供します。

- **登録済み VM の復元** - VM が登録されている場合、電源のオン/オフに関係なく、HX ネイティブスナップショットと VM スナップショットは、スナップショットが作成された時点よりも前の状態を復元できます。
- **高性能** - HX ネイティブスナップショットのプロセスは、I/O オーバーヘッドが発生しないため高速です。
- **VM のパフォーマンス** - HX ネイティブスナップショットは、VM のパフォーマンスを低下させません。
- **クラッシュ整合** - HX ネイティブスナップショットは、デフォルトでクラッシュ整合です。I/O のクラッシュ整合性においては、アプリケーションがクラッシュから正常に再起動できるように、書き込み操作の正しい順序を維持するように定義されています。
- **静止** - ゲストファイルシステムを静止した状態で HX Native スナップショットを作成できます。静止オプションは、Cisco HyperFlex Connect、HyperFlex コマンドラインユーザーインターフェイス、および HX REST API を使用する場合に使用できます。静止オプションを使用して HX ネイティブスナップショットを作成する場合は、ゲスト VM に VMware ツールをインストールする必要があります。

HyperFlex リリース 4.5 (2a) および VMware ESXi 7.0 U2 以降の静止スナップショットのパフォーマンスと信頼性が向上しました。

「ファイルシステムの休止」とは、物理または仮想コンピュータのディスク上のデータをバックアップに適した状態にするプロセスを指します。このプロセスには、オペレーティングシステムのメモリ内キャッシュからディスクにダーティバッファをフラッシュするなどの操作の他、アプリケーションに固有の高位レベルのタスクが含まれる場合があります。

休止ベースのスナップショットは、Windows2008R2 オペレーティングシステムではサポートされていません。オペレーティングシステムのサポート終了です。サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、VMware のドキュメントを参照してください。 [VMware 互換性ガイド](#)

システムに休止エラーが表示された場合は、次のリンクから、VMware のナレッジベース『[Troubleshooting Volume Shadow Copy \(VSS\) quiesce related issues \(1007696\)](#)』の記載を参照してください。

- **ノード障害に強いスケジュール済みスナップショット**：スケジュール済みスナップショットは、ノードのシャットダウンが必要な管理操作（HM メンテナンス モードや HX オンラインアップグレードなど）に対して耐障害性があります。  
スケジュール済みスナップショットは、マルチクラスタ環境では他の HX クラスタで発生する障害に対して耐障害性があります。
- **詳細な進捗とエラー レポート**：これらのモニタリング タスクは、VM レベルの HX Native スナップショットのタスク レベルで実行されます。。
- **瞬時のスナップショットの削除** - HX ネイティブ スナップショットと統合の削除は常に瞬時に行われます。
- **VDI 導入サポート**。スケジュール済み HX ネイティブ スナップショットは、VMware ネイティブ テクノロジーを使用する VDI 導入環境のデスクトップ VM でサポートされています。
- **データストア アクセス**。スナップショット対象の VM がアクセス可能なマウントポイントにある限り、スナップショットは部分マウントまたはアクセス可能なデータストアに対して機能します。

## HX ネイティブスナップショットの考慮事項

### スナップショットパラメータ



**注目** HX リリース 4.5 (2a) 以降では、VMware ESXi 7.0 U2 Sentinel スナップショットは適用されません。

- **HX ネイティブスナップショット**—最初の HX ネイティブ スナップショットを作成すると、HX ネイティブ スナップショットの前に HX SENTINEL スナップショットが作成され

ます。SENTINEL スナップショットは、後続のスナップショットが HX ネイティブ スナップショットであることを保証するベースライン スナップショットです。SENTINEL スナップショットが存在する場合、vSphere を使用して追加のスナップショットを作成すると、HX ネイティブ スナップショットが作成されます。



(注) ネイティブ スナップショットの作成時に、VMware スナップショット (非ネイティブ) が存在しないようにする必要があります。

- **HX スナップショットと VMware VAIO の互換性**-VMware VAIO が設定された HX スナップショットの作成はサポートされていません。HX スナップショットを作成しようとすると、VM の電源がオフになります。HX スナップショットは、vSphere API for IO Filtering (VAIO) が有効になっている仮想マシンと共存できません。VAIO フレームワークをバックアップソリューションで使用して、仮想マシンの継続的データ保護 (CDP) を有効にすることができます。CDP でバックアップソリューションを使用するには、CDP 機能を有効にする前に既存の HX スナップショットを削除します。

製品で VMware VAIO フレームワークが使用されているかどうかを確認するには、認定ベンダーのリストを確認します。

<https://www.vmware.com/resources/compatibility/search.php?deviceCategory=vaio>

- **保存スナップショットの最大数** : VMware における VM ごとのスナップショットの上限は、31 です。制限の合計は、すべての VMware 作成済みスナップショット、HX SENTINEL スナップショット、および HX ネイティブ スナップショットの合計に等しくなります。

仮想マシンの snapshot.maxSnapshots プロパティで設定されている数字以上のスナップショットをユーザーが作成しようとすると、次のエラーメッセージでスナップショット操作が失敗します : スナップショット操作を実行できません。

- **スケジュール済みスナップショット** : VM とそのリソースプールで、スナップショットが重複してスケジュールされないようにしてください。

## Performance

- **VMware vSphere ストレージ API アレイ統合 (VAAI)** : 最適な HX スナップショットのパフォーマンスと機能を実現するには、ESXi 7.0 U2 にアップグレードします。

## アップグレード プロセス中のスナップショット

- HX ネイティブ スナップショットは、HX、ESXi、または UCS のアップグレードが進行中の場合はサポートされていません。

## VM

表 1: リリース固有の VM に関する考慮事項

リリース	検討
HX リリース 3.5 の展開	VM がグラフィック処理装置 (GPU) に接続されていないことを確認します。
HX リリース 3.5.2(a) 以前	電源がオンになっているすべての VM は、HX Native スナップショットを撮影時に同期統合 (asynConsolidate = false) を使用します。
HX リリース 3.5.(2b) 以降 :	電源がオンになっているすべての VM は、HX Native スナップショットを撮影時に非同期統合 (asyncConsolidate = true) を使用します。VM がオフの場合、設定は変更されません。
VMware ESXi 7.0 U2 以降を使用する HX リリース 4.5 (2a) 以降	統合時間は、仮想マシンの I/O 負荷に比例しなくなりました。 Sentinel スナップショットは作成されなくなりました。

次の注意事項は、すべてのさぼーとあれているリリースに適用されます。

- **VM ハードウェア バージョン:** HX Native スナップショットには、VM ハードウェア バージョン 9 以降が必要です。最新バージョンを使用することを推奨します。
- **削除された VM :** HX ネイティブ スナップショットのライフサイクルは、VM スナップショットと同様であり、仮想マシンに関連付けられています。VM が故意にまたは誤って削除されると、関連するすべての HX ネイティブ スナップショットも削除されます。HX ネイティブ スナップショットには、削除された VM から回復するメカニズムはありません。VM の削除から保護するには、バックアップ ソリューションを使用します。
- **HX Data Platform ストレージコントローラ VM:** ストレージコントローラ VM の HX Native スナップショットはスケジュールできません。
- **HX Data Platform に属していない VM (Non-HX Data Platform VMs) :** HX データストアに存在しない VM では、HX Native スナップショットは機能不全になります。HX データストアにまたがる VM の HX ネイティブ スナップショットには、VMware ESXi バージョン 7.0 U2 以降を備えた HXDP バージョン 4.5 (2a) 以降が必要です。
- **中断状態の VM:** 最初の HX Native スナップショットおよび VM の HX SENTINEL スナップショットを中断状態から作成することはサポートされていません。
- **VM 名 :** VM 名は、HX Native スナップショットの撮影に対して、vCenter ごとに固有である必要があります。
- **準備ができていないストレージ クラスタ:** HX Native スナップショットを許可するには、ストレージ クラスタが、十分なスペースがあり、オンラインである必要があります。VM が存在するデータストアにアクセスできる必要があります。VM が有効であり、移行状態 (vMotion 実行中など) であってはなりません。

## オンラインノードが1つだけ残っているクラスタ

- HX Native スナップショットは、電源オン状態の CBT 対応 VM の単一オンラインノードでは許可されません。VM の電源をオフにし、SENTINEL スナップショットを取得します。電源がオンになっている VM の後続のスナップショットがサポートされます。

## vCenter

- **vMotion** : vMotion は、HX ネイティブスナップショットのある VM でサポートされています。
- **Storage vMotion** : Storage vMotion は、HX ネイティブスナップショットのある VM ではサポートされていません。VM を別のデータストアに移動する必要がある場合は、Storage vMotion を実行する前にスナップショットを削除してください。

## 名称

- **名前の重複** : HX Data Platform vCenter で、VM やリソースプールの名前の重複はサポートされておらず、HX ネイティブスナップショットが失敗します。これには、ネストされたリソースプール内の親および子、別の vCenter クラスタ内のリソースプールが対象となります。
- **名前の文字** : 特殊文字はサポートされていません。名前に特殊文字を使用すると、指定した名前とは異なる名前が表示されます。
- **スナップショット名の最大長** - 80 文字。

## ディスクとデータストア

- **シック ディスク** - ソースディスクがシックディスクの場合、VM のディスクのスナップショットもシックになります。必要に応じて、スナップショットに対応するためデータストアサイズを大きくしてください。



- 
- (注) HyperFlex データストアで新しい仮想マシンディスクを作成し、シックプロビジョニングされたディスクの作成を有効にする場合、シックプロビジョニングされたディスクを作成するオプションはありません。これは、VMware の既知の問題です。詳細については、「[Creating VMDK with NFS-backed storage does not allow thick-provisioning with vendor plugin](#)」を参照してください。
-



(注) ESXi は、NFS データストア上のシックプロビジョニングの遅延ゼロ仮想ディスクとシックプロビジョニングの仮想ゼロディスクを区別できません。NFS データストアを使用する場合、vSphere クライアントでは、Thick Provision Lazy Zeroed (zeroedthick) または Thick Provision Eager Zeroed (eagerzeroedthick) 形式の仮想ディスクを作成できます。ただし、[仮想マシンのプロパティ (Virtual Machine Properties)] ダイアログボックスでディスクタイプをオンにすると、[ディスクプロビジョニング (Disk Provisioning)] セクションに、ディスクフォーマットとして[シックプロビジョニング (Eager Zeroed)] が常に表示されます (ディスク作成時にどのフォーマットを選択しても)。

- **仮想ディスク タイプ** : VMware は、さまざまな仮想ディスク バックアップ タイプをサポートします。最も一般的なタイプは FlatVer2 形式です。HX ネイティブ スナップショットはこの形式でサポートされています。

その他の仮想ディスク形式には、Raw Device Mapping (RDM)、SeSparse、VmfsSparse (Redlog 形式) などがあります。これらの形式の仮想ディスクを含む VM は、HX ネイティブ スナップショットではサポートされていません。

#### ログインアクセス

- **SSH** : SSH がストレージクラスタ内のすべてのノード上の ESX で有効になっていることを確認してください。

#### 制限

オブジェクト	最大数
HX ネイティブ スナップショット	VM あたり 30 VMware の上限は 31 です。1 つのスナップショットが HX SENTINEL スナップショットで使用されます。
データ ストア	ストレージクラスタあたり 48
最大 VMDK サイズ	3 TB

## HX ネイティブ スナップショットのベスト プラクティス

- 多数のスナップショットを作成する際には、次の点を考慮します。
  - データトラフィックの低いことが予想される場合は、HX ネイティブ スナップショットを同時にスケジュールします。

- 多数の VM が同時にスナップショットされるようにスケジュールされないように、HX ネイティブスナップショットスケジュールをずらします。
- ストレージクラスタ内の VM で vCenter が稼働している場合は、vCenter VM の HX Native スナップショットを作成しないでください。これは、[https://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en\\_US&cmd=displayKC&externalId=2003674](https://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2003674)にある VMware KB 「VMware VirtualCenter Server service fails due to a quiesced snapshot operation on the vCenter Server database virtual machine (2003674)」に関連しています。

### HX ネイティブスナップショットのベストプラクティス HX リリース 4.5 (1x) 以前

HX リリース 4.5 (2a) および ESXi 7.0 U2 で重要な更新が導入されました。次の推奨事項は、このリリースの前に導入されたリリースを使用しているユーザにのみ適用されます。



**重要** VMの最初のスナップショットを作成するためには、常にHXネイティブスナップショット機能を使用してください。これで、後続のスナップショットがすべてネイティブ形式になります。

- VM の最初のスナップショットを作成するためには、VMware のスナップショット機能を使用しないでください。VMware スナップショットは redo ログ技術を使用するので、それが原因で元の VM でパフォーマンスが低下します。しかも、スナップショットが追加されるごとにパフォーマンスがさらに低下します。
  - 削除すべき redo ログ スナップショットがある場合は、redo ログ スナップショットが常駐する ESXi ホストで、`/etc/vmware/config` ファイルを編集して、`snapshot.asyncConsolidate="TRUE"` を設定します。
- HX ネイティブスナップショットは、最初の HX ネイティブスナップショットが作成された後の VM のパフォーマンスには影響しません。
- 最初の HX ネイティブスナップショットを作成する前に、VM にすべての VMDK を追加します。

VMDK が VM に追加されると、追加の SENTINEL スナップショットが取得されます。それぞれの追加の HX SENTINEL は、追加スペースを使用します。

たとえば、HX Native スナップショットを持つ既存の VM に 2 つの新しい VMDK を追加すると、次にスケジュールされた HX Native スナップショットで 1 つの新しい HX SENTINEL が作成されます。1 つ以上の VMDK を追加する必要がある場合は、既存の HX Native スナップショットスケジュールの保持計画を確認し、保持されている HX Native スナップショットと HX SENTINEL スナップショットの合計数が合計値 31 を超えないようにしてください。



# HX ネイティブ スナップショットのタイムゾーン

スナップショットのタイムスタンプとスケジュールを表示したり操作したりするオブジェクトは、次の3つです。

- vSphere と vCenter は UTC 時間を使用します。
- vSphere クライアント (HTML5) はブラウザのタイムゾーンを使用します。
- HX vSphere クライアント (HTML5) プラグイン、HX ストレージ クラスタ、HX ストレージ コントローラ VM は同じタイムゾーンを使用します。これは HX ストレージ クラスタ全体に適用されます。これらのエンティティで使用されるタイムゾーンは設定可能です。デフォルトは UTC です。

スケジュールの設定には HX ストレージ コントローラ VM の時刻が使用されます。HX ネイティブ スナップショットの作成には vSphere UTC 時刻が使用されます。ログとタイムスタンプは、その表示方法に応じて異なります。

HX vSphere クライアント (HTML5) を使用してスケジュールを作成すると、スケジュールされた時間は HX ストレージ コントローラ VM のタイムゾーンから UTC に変換されます。vSphere クライアント (HTML5) タスクでスケジュールを表示すると、ブラウザのタイムゾーンでタスクが表示されます。

これらを同じタイムゾーンに変換すると、同一時刻になります。たとえば、5:30pm PST、8:30PM EST、1:30AM UTC はすべて同じ時刻です。

[vSphere のスケジュールされたタスク] タブの場合、HX vSphere クライアント (HTML5) プラグイン内で作成したスケジュール済みのスナップショットと同じ時間を表示し、ストレージ コントローラ VM を UTC に設定します。

ローカルのタイムゾーン設定に基づいて、スナップショットをスケジュールに沿って実行するには、ストレージ クラスタ用のタイムゾーンを設定します。デフォルトでは、ストレージ コントローラ VM は HX Data Platform のインストール中に設定された UTC のタイムゾーンを使用します。

vSphere とストレージ コントローラ VM が同じタイムゾーンを使用していない場合、[vSphere Scheduled tasks] タブでは [HX vSphere クライアント (HTML5) プラグイン] スケジュール スナップショット s ダイアログでスケジュールした時間とは異なる時間が表示される場合があります。

時間単位のスナップショットを設定すると、スナップショットスケジュールは特定の開始時間と終了時間の間で実行されます。[vSphere Task (vSphere タスク)] ウィンドウでは、タイムゾーンに基づき、スケジュールされたスナップショットが時間単位で指定された終了時刻の後で完了したというステータスを表示することがあります。

## ストレージ コントローラ VM で使用されるタイムゾーンの識別と設定

1. ストレージ コントローラ VM のコマンドラインから、タイムゾーンの設定を参照します。

```
$ stcli services timezone show
```

2. ストレージクラスタのタイムゾーンを変更します。

```
$ stcli services timezone set --timezone timezone_code
```

タイムゾーンのコードに関する詳細については、

[https://en.wikipedia.org/wiki/List\\_of\\_tz\\_database\\_time\\_zones](https://en.wikipedia.org/wiki/List_of_tz_database_time_zones) などからタイムゾーンのリファレンスを参照してください。

#### 関連トピック

[スナップショットのスケジュール](#)

## HX ネイティブスナップショットの作成

HX ネイティブスナップショットを作成するには、次の手順を実行します。

#### 始める前に

HX ストレージクラスタ内の VM の redolog スナップショットを削除します。この手順が完了していない場合は、VM がスナップショット統合中に機能しなくなる可能性があります。

Redo ログスナップショットは、HX Native のスナップショット機能ではなく、VMware のスナップショット機能を介して作成されるスナップショットです。REDO ログスナップショットが存在する ESXi ホスト設定を編集するには、

1. ESXi ホストのコマンドラインにログインします
2. 編集するために `/etc/vmware/config` を探して開きます。
3. `snapshot.asyncConsolidate` パラメータを `TRUE` に設定します。

```
snapshot.asyncConsolidate="TRUE"
```

---

**ステップ 1** vSphere クライアント (HTML5) ナビゲータから、VM レベルで vCenter の VM のリストを表示します。ホストとクラスタ、VM とテンプレート、ストレージ、ネットワーク、またはグローバルインベントリリストのいずれかの方法で VM リストを表示します。

例：

グローバルインベントリリスト > VM

**ステップ 2** ストレージクラスタ VM を選択し、[操作 (Actions)] メニューを開きます。[VM 情報 (VM information)] ポートレット内で、VM を右クリックするか [操作 (Actions)] メニューをクリックします。

(注) ストレージクラスタのリソースプール上に HX Data Platform に属していないデータストアがないことを確認します。そうでない場合、スナップショットは失敗します。

**ステップ 3** [Cisco HX Data Platform] > [今すぐスナップショット (Snapshot Now)] の順に選択して、[スナップショット (Snapshot)] ダイアログボックスを表示します。

**ステップ 4** ダイアログボックスに入力します

表 2: [Take Snapshot] ダイアログボックス

フィールド	説明と使用上の注意
名前	スナップショット名を入力します。スナップショット名の最大長は80文字です。
説明	スナップショットの説明を入力します。
[スナップショット オプション] チェックボックス	チェックボックスを使用して、[仮想マシンのメモリのスナップショット (Snapshot the virtual machine's memory)] または [ゲスト ファイルシステムの静止 (Quiesce guest file system)] を選択します (VMware Tools がインストールされている必要があります)。

**ステップ 5** [OK] をクリックして、HX ネイティブ スナップショットを作成します。

[最近のタスク (Recent Tasks) ] タブでは、次のステータス メッセージが表示されます。

```
Create virtual machine native snapshot.
The first snapshot
```

#### 関連トピック

[今すぐスナップショットを作成](#)

## ESXi 7.0 U2 を使用した HX ネイティブ スナップショット

ESXi 7.0 U2 を使用してスナップショットを作成すると、次の機能が強化されます。

- Sentinel スナップショットは作成されません。
- VM 属性 `snapshot.alwaysAllowNative=TRUE` を自動的に設定することで、VM のすべてのスナップショットの VAAI オフロードをサポートします。
- パフォーマンス、信頼性、および機能の向上。
- スパンされたデータストア上の VM のスナップショットをサポートします。
- 不要になった場合に自動的に識別し、sentinels を削除します。

## HX Native スナップショットのスケジューリングの概要

スナップショットスケジューリングをストレージクラスオブジェクト (VM、VM リソースプールなど) に適用します。



- (注) vCenter クラスタを再登録すると、HXNative のスナップショットスケジュールは失われます。この場合は、HX Native スナップショット スケジュールを再設定します。

HX Native スナップショットをスケジュールする場合は、バックアップ要件を考慮してください。重要なデータについては、より頻繁な HX Native スナップショットを保持します。障害発生時には、直近の HX Native スナップショットを復元するか、カスタムのリアルタイム HX Native スナップショットを作成できます。重要度の低いデータの場合は、HX Native スナップショットの作成頻度を少なくすることを検討します。

HX Native スナップショット スケジューリングは、バックアップコストの制御に役立ちます。ストレージクラスタの各 VM で、時間単位、日単位、または週単位でスナップショットをスケジュールできます。個別の VM の最大頻度は、1 時間に 1 度です。時間単位の設定は 15 分の増分値で利用できます。

たとえば、HX Native スナップショットは、次の設定で毎日、取得されます。

- VM 1 の時間単位のスナップショット、午後 10 時と午前 1 時の間の 15 分に実行。
- VM 2 の時間単位のスナップショット、午後 8 時と午前 12 時の間の 30 分に実行。
- VM 3 と 4 の時間単位のスナップショット、午前 6 時と午前 8 時の間の 45 分に実行。
- VM 5 の日単位のスナップショット、午前 6 時に実行

これらの HXNative スナップショットは毎日、取得されます。最後の HXNative スナップショットが終了時:00 分より前になっていることに注意してください。

- 午前 6 時 — VM 5
- 午前 6 時 45 分 — VM 3、VM 4
- 午前 7 時 45 分 — VM 3、VM 4
- 午後 8 時 30 分 — VM2
- 午後 9 時 30 分 — VM2
- 午後 10 時 15 分 — VM1
- 午後 10 時 30 分 — VM2
- 午後 11 時 15 分 — VM1
- 午後 11 時 30 分 — VM2
- 午前 12 時 15 分 — VM1

24 時間で 1 時間ごとに HX Native スナップショットをスケジュールするには:

**ステップ 1** 開始時刻を設定します

**ステップ 2** 開始時刻の 1 時間前に終了時刻を設定します。

例:

時間が 15 分の設定で、午後 4 時を開始にして午後 3 時を終了にします。

このタスクは、HX Native スナップショットを午後 4 時 15 分、午後 5 時 15 分 ... 午前 12 時 15 分、午前 1 時 15 分 ... 午後 2 時 15 分、午後 3 時 15 分に取得します。その後、24 時間のサイクルが再開されます。

(注) VM ごとの最大 HX Native スナップショット数は 31 です。1 つの HX SENTINEL スナップショットも必要です。したがって、1 時間ごとに HX Native スナップショットを取得し、最新の 30 の HX Native スナップショットを保持することができます。

HX Native スケジュール スナップショットには、ストレージコントローラ VM の現在のタイムゾーン設定に基づく、スナップショットの設定時間が表示されます。そのため、HX Native スナップショットを午後 7 時 PST に設定し、ストレージコントローラ VM のタイムゾーンを EST に変更した場合、次に HX Native スケジューラのウィンドウを開くときには、設定時間は午後 10 時 EST に自動で更新されています。

---

### 関連トピック

[スナップショットのスケジューリング](#)

---

## HX Native スナップショットのスケジューリング

- ステップ 1** vSphere クライアント (HTML5) のホームページから、VM またはリソース プール リストを選択します。  
たとえば、[vCenter インベントリ リスト (vCenter Inventory Lists)] > [仮想マシン (Virtual Machines)] の順に選択し、vCenter 内での VM のリストを表示します。
- ステップ 2** ストレージクラスタ VM またはリソースプールを選択し、[アクション (Actions)] メニューを開きます。  
オブジェクトを右クリックするか、または [操作 (Actions)] メニューをクリックします。
- ステップ 3** [操作 (Actions)] メニューから [Cisco HX Data Platform] > [スケジュール スナップショット (Schedule Snapshot)] の順に選択し、[スケジュール スナップショット (Schedule Snapshot)] ダイアログ ボックスを表示します。
- ステップ 4** スナップショットの頻度を選択します。  
時間単位、日単位、週単位の頻度を示すボックスをクリックし、開始日、開始時刻、および期間を設定します。
- ステップ 5** 保持するスナップショットの数を設定します。  
最大数に達すると、新しいスナップショットの作成に伴って古いスナップショットが削除されます。
- ステップ 6** 必要に応じて、既存のスケジュール済み項目を選択解除します  
以前のスケジュールが存在している場合は、項目を選択解除すると、今後のスケジュールからこれらの項目が削除されます。
- ステップ 7** [OK] をクリックしてスケジュールを受け入れ、ダイアログを閉じます。

# HX Native スケジュール済みスナップショットの頻度の設定

スナップショットを、毎時間（特定の時刻）、毎日（特定の時刻）または毎週（選択した曜日と時刻）作成します。

## 始める前に

VM またはリソース プールの [スナップショットのスケジュールリング (Schedule Snapshot)] ダイアログボックスを開きます。

- 
- ステップ 1** [スケジュールスナップショット (Schedule Snapshot)] ダイアログボックスで、[時間単位のスナップショットを有効にする (Enable Hourly Snapshot)]、[日単位のスナップショットを有効にする (Enable Daily Snapshot)]、または [週単位のスナップショットを有効にする (Enable Weekly Snapshot)] のチェックボックスをオンにします。
- ステップ 2** ドロップダウンリストの [開始 (Start)] をクリックし、開始時間を選択します。時間、15 分単位の分、午前または午後を選択します。
- ステップ 3** スナップショットスケジュールを時間単位で設定するには、[終了日時 (Until)] ドロップダウンリストをクリックして、終了時間を選択します。時間、15 分単位の分、午前または午後を選択します。[開始 (Start)] で選択した開始時間と同じ値に分を設定します。
- HX Data Platform プラグインは、開始時間と終了時間の間で毎時間ごとに VM のスナップショットを作成します。
- ステップ 4** 対応するチェックボックスをオンにして、スナップショットを取得する曜日 ([日 (Days)]) を指定します。
- ステップ 5** [保持 (Retention)] で、数値を入力するか矢印ボタンを使用して、スケジュールごとに保持するコピーの最大数を指定します。

---

## 関連トピック

[スナップショットのスケジュール](#)

# HX Native スナップショットスケジュールの削除

- 
- ステップ 1** HX vSphere クライアント (HTML5)、から、VM またはリソース プール リストを選択します。
- たとえば、[vCenter インベントリ リスト (vCenter Inventory Lists)] > [仮想マシン (Virtual Machines)] の順に選択し、vCenter 内での VM のリストを表示します。
- ステップ 2** ストレージクラスタ VM またはリソースプールを選択し、[アクション (Actions)] メニューを開きます。

オブジェクトを右クリックするか、または [操作 (Actions) ] メニューをクリックします。

**ステップ 3** [アクション (Actions) ] メニューから [Cisco HX データ プラットフォーム (Cisco HX Data Platform) ] > [スケジュール スナップショット (Schedule Snapshot) ] を選択し、[スケジュール HX Native スナップショット (Schedule HX Native Snapshot) ] ダイアログ ボックスを表示します。

**ステップ 4** 不要になったスケジュール済みオプションをオフにします。

**ステップ 5** [OK] をクリックして変更を受け入れ (変更には、以前に設定されていたスケジュールの削除が含まれません) 、ダイアログを終了します。

**ステップ 6** スケジュールが削除されたことを確認します。

ストレージ クラスタ VM または リソース プールを選択します。HX vCenter のタブ、[管理 (Manage) ] > [スケジュール済みタスク (Scheduled Tasks) ] をクリックします。これで、以前の HX Native スナップショット スケジュールが表示されなくなります。

## HX ネイティブ スナップショットへの復帰

スナップショットに復帰すると、VM がスナップショットに保存されている状態に戻ります。スナップショットへの復帰は、一度に 1 つの VM で実行します。スナップショットへの復帰は、HX Data Platform プラグインではなく vCenter Snapshot Manager で実行されます。

### 始める前に

VM のスナップショットが存在している必要があります。

**ステップ 1** vSphere クライアント (HTML5) から、VM レベル、VM フォルダ レベル、または リソース プール レベルを選択します。たとえば、[vCenter インベントリ リスト (vCenter Inventory Lists) ] > [仮想マシン (Virtual Machines) ] の順に選択し、vCenter 内の VM のリストを表示します。

**ステップ 2** ストレージ クラスタ VM を選択し、[操作 (Actions) ] メニューを開きます。[VM 情報 (VM information) ] ポートレット内で、VM を右クリックするか [操作 (Actions) ] メニューをクリックします。

**ステップ 3** [スナップショット (Snapshots) ] > [スナップショットの管理 (Manage Snapshots) ] を選択し、vSphere Snapshot Manager を開きます。

**ステップ 4** 選択した VM のスナップショット階層から、復元するスナップショットを選択します。

**ステップ 5** [復帰 (Revert to) ] > [はい (Yes) ] > [閉じる (Close) ] の順にクリックします。

復帰された VM は VM リストに追加され、電源がオフになります。場合によっては、VM スナップショットから復帰した VM がすでに電源オンになっていることがあります。詳細については、次の表を参照してください。

表 3: HX VM スナップショットの再起動後の VM 電源状態

HX VM スナップショット撮影後の VM 状態	復元後の VM 状態
電源がオンになっています (メモリが含まれます)。	HX VM スナップショットに戻した後、VM がオンになり実行中になります。
電源がオンになっています (メモリを含みません)。	HX VM スナップショットに戻した後、VM がオフになります。
電源がオフになっています (メモリを含みません)。	HX VM スナップショットに戻した後、VM がオンになり実行中になります。

ステップ 6 戻された VM がオフになる場合、VM を選択して、電源をオンにします。

## HX Native スナップショットの削除

HX Native スナップショットの削除は、HX vSphere プラグインではなく vSphere インターフェイスで管理されます。

ステップ 1 vSphere クライアント (HTML5) から、[VM とテンプレート (VMs and Templates)] > [vcenter\_server] > [スナップショット (Snapshots)] > [データセンター (datacenter)] > [vm] の順序で選択します。

ステップ 2 [vm] を右クリックして、[Snapshots] > [Manage Snapshots] を選択します。

ステップ 3 HX Native スナップショットを選択し、[削除 (Delete)] をクリックします。

(注) [すべて削除 (Delete All)] オプションのみを使用して、HX SENTINEL スナップショットを削除します。HX SENTINEL スナップショットは個別に削除しないでください。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。